

2020年10月22日

大阪産業大学附属高等学校

2019年度 学校関係者評価

大阪産業大学附属高等学校
学校関係者評価委員会

10月22日に学校関係者評価委員会（9名中8名の委員が出席）を開き、学校が公表する生徒アンケート、学校評価に基づいて大阪産業大学附属高等学校の教育について議論しました。その概要を報告します。

1. 2019年度 学校評価について

学校からの授業アンケート結果についての分析報告、学校評価の報告を受けて各委員から学校への質問、感想や提言がありました。年々教員の授業の質に対する生徒からの評価が向上しているという授業アンケートをもとにした報告に、各委員の関心が集まり、様々な質問が学校に寄せられました。

2. 学校教育への提言

A. 保護者代表から

各教員の指導が細やかで、一つの事象に対して一面的に指導するのではなく、様々な角度から生徒にアプローチしてくれており、授業以外のことでも気を遣ってくれている。教員がタイミング良く声をかけてくれ、成績面でも親身になって指導してくれるという声がありました。

別の委員からは学年が上がるにつれ、遅刻をしないように取り組む意識も向上しているが、学校が何らかの対策をしているのかという質問に学校から回答がありました。また学校の授業アンケートは1年に1回年度末近くの1月に実施し、結果を教員に知らせ授業に活かすということだが、アンケートを年度内に実施したら年度内に授業の改善に活かせるのではないかと学校への提言がありました。

B. 保護者OB代表から

自分の子どもが在学していた頃と比べて、今の生徒たちはしっかり頑張っている様子がうかがえた。自分の周囲からも良い評判をよく聞くという声がありました。

別の委員からは生徒からの学校への評価が高まっているのはいいことだが、学校は生徒の結果だけを見るのではなく、プロセスを重視してあげてほしい。また、生徒は自分の目標を見つけることができると、自ずと意欲的に取り組めると思うので、そのような仕掛けもぜひしてあげてほしい。これからの教育は正解のない問いに対し向き合い、解決の糸口を探っていく課題解決型学習が中心になっていくと思われるので、そうした取り組みにも期待するという意見がありました。

C. 同窓生代表から

学校からの報告の中に、文化・芸術活動にも力を入れており、最近では吹奏楽部の活動が充実しており、2019年度は初めての定期演奏会を開いたとあったが、今年の定期演奏会にはぜひ招待していた

だきたいという声が出ました。

D. 地域住民代表から

登下校時、生徒をよく見かけるが、みんな礼儀正しくなったと感じる。また、ボランティア活動部が地域子ども（小学生）支援活動「Sumire Smile Space」にも参加してくれるなど、地域活動にも積極的に協力、貢献してくれているという意見がありました。

E. 大阪産業大学の教員から

高校1年から2年へと学年が上がるにつれ、各質問項目に対する数値が上昇しているのがアンケートからよくわかったが、3年からもアンケートを採れていれば、学校の教育実践についての検証がさらになされるのではないかと感じたという意見がありました。

別の委員からは、アンケート中にある「1日の家庭学習をどの位していますか」という回答の結果はどのように推移しているのか、大学生も授業の予復習はある程度するのだが、それ以外の自学自習にあまり時間を割いていないのが課題なので伺いたいとの質問に、学校からの回答がありました。